

ダニの類によく見られる方法で、寄生性のものが寄主と共に飛行することは當然であるが、その他の場合一時的に他の動物に附着して移動の目的を達するものがある。

動物の死屍や排泄物を常食として居るシデムシ (Silphidae) や食肉性のコガネムシ (Coprophagidae) 類或はエンマムシ (Histeridae) 等の体表には無数の褐色をした平たい頑丈なダニが澤山にしがみついて居るのを見ることがあろう。これは甲蟲に寄生して居るのではなく、ダニ自身が甲蟲と同じものを食つて居るので、甲蟲にさへつかまつて居れば樂々と食物のある處へ連れて行つて呉れる居候である。

此の様な餌のある處をよく探せば甲蟲に置いて來ほり食つたダニが見られるが、何れは後から來た飛行機に乗り換へて新しい御馳走の處へ案内して貰へるのである。此のダニは體の下面とか背面ならば腕部等に附着して居るが、翅には止つて居ない。

アトヒザリは古書の間とか、樹皮の下等に棲んで居るものであるが、時々イヘバへに附着して移動することがある。筆者は臺灣で一回、最近自宅で一回（兩方共別種）イヘバへの肢端に觸鬚のハサミでつかまつて居るものを捕獲した。又北海道の續木正治君も同様のものを採集してその標本を贈られたが、如何なる機會にイヘバへに乗り移るかは興味ある問題であらう。

表 紙 説 明

創立會員關志満子女史が昭和13年11月3日に撮影なされたものです。蜘蛛は其の生活様式・形態等より察して多分ハグモ *Dictyna* sp. であらうと思はれます。植物の葉は芙蓉の葉です。網に捕まつたヒラタアブは既に内臓を食ひ盡されてゐたとの事です。

訂 正

本誌 Vol. 3, No. 2, p. 69 3 行目「海拔約 000 米」とあるは「海拔約 1000 米」及同 8 行目「656 1 米」とあるは「656.1 米」の誤りにつきこゝに訂正する。

(藤田衛氏の論文)